

2017年11月14日

知っているようで知らない 「心不全」に関する生活者調査 ～心臓移植に対する意識などの調査結果から～

公益財団法人 循環器病研究振興財団（理事長：北村惣一郎、所在地：大阪府吹田市）は本年9月、20代から60代の男女1,000人（男性500人／女性500人）を対象にインターネットで「心不全に関する理解度を知る調査」※を行い、一般生活者の臓器移植に対する意識や心臓移植に関する知識の状況が明らかになりました。

1997（平成9）年10月16日に臓器移植法が施行されて20年が経ち、その後2010（平成22）年には法改正も行われ、家族の承諾に基づく脳死臓器移植や15歳未満の小児の脳死臓器提供も可能になりました。

しかし、この20年間で脳死下の臓器提供者は475人（2017年9月末時点／日本臓器移植ネットワーク）に過ぎません。米国での臓器提供者数が年8,000～9,000人いることと比較すれば、日本の移植医療はまだその緒についたばかりです。

高齢化の進展とともに「心不全」患者さんの急激な増加が予測される中、本調査結果が今後の啓発活動の一助となれば幸甚に存じます。

※「心不全に関する理解度を知る調査」を基に本年10月31日、「一般生活者の心不全に対する意識や知識の状況」を発表していますが、同調査では心不全の治療のひとつである心臓移植に関する質問も設けており、今回はその調査結果からの発表となります。

<調査実施概要>

- 【対象者】 一般の男女 20代～60代
【サンプル数】 1,000人（男性500人 女性500人） ※全国の性年代人口構成比で割付
【調査実施期間】 2017年9月21日～25日
【調査方法】 インターネット調査

<主なトピックスは、以下のとおりです>

- 自分の臓器を「提供する」ことに対して、2人に1人が肯定的な意思を持つ。
- 女性の方が意思表示に前向き。特に20代では、男性に比べて20ポイント以上も高い。
- 心臓の提供を「受ける意思がある」と考える人は、「受けたくない・受けない」と考える人のほぼ2倍。
- 20代では、男性に比べ、心臓の提供を「受ける意思がある」女性が20ポイント以上も高い。
- 補助人工心臓を詳しく知っている人は、わずか3.8%。
- 補助人工心臓治療は「高額な費用が掛かる」というイメージ。
- 男性より女性の方が、補助人工心臓についてより具体的なイメージを持っている。

【本調査に関するお問い合わせ先】

公益財団法人 循環器病研究振興財団 斎藤、小川、井上 電話：06-6872-0010

■ 自分の臓器を「提供する」ことに対して、2人に1人が肯定的な意思を持つ。

臓器提供の意思表示をしているか尋ねたところ、約半数が臓器提供に肯定的な意思を持っているという結果となった（「意思表示している」（11.3%）、「意思表示したいと思っはいるが、まだ意思表示していない」（37.8%））。

しかし一方で、「意思表示していないし、意思表示したいと思わない」（37.9%）という否定的な意思を示した人も約4割にのぼっている。

■ 女性の方が意思表示に前向き。特に20代では、男性に比べて20ポイント以上も高い。

既に「意思表示している」人での男女差は、ほとんどみられない。しかし、「意思表示したいと思っはいるが、まだ意思表示していない」という前向きな検討層では、男性に比べて女性の方が高い。特に、20～30代女性では、20代では22.1ポイント、30代では13.1ポイントも上回った。

図 臓器提供の意志表示の状況

Q. あなたご自身また、あなたのご家族は現在、臓器提供の意思表示をしていますか。

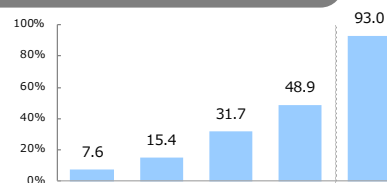
(1)自分自身 (SA) (2)家族 (MA)

自分自身 (N=1000)

意思表示している	意思表示したいと思っはいるが、まだ意思表示していない	意思表示していないし、意思表示したいと思わない	意思表示しているかどうかはわからない・知らない・家族はいない	意思表示なし・不明計
11.3	37.8	37.9	13.0	88.7

	回収数	意思表示している	意思表示したいと思っはいるが、まだ意思表示していない	意思表示していないし、意思表示したいと思わない	意思表示しているかどうかはわからない・知らない・家族はいない	意思表示なし・不明計
全 体	1000	11.3	37.8	37.9	13.0	88.7
男性計	500	11.0	33.8	39.8	15.4	89.0
20代男性	79	10.1	26.6	40.5	22.8	89.9
30代男性	99	13.1	37.4	31.3	18.2	86.9
40代男性	116	12.1	33.6	41.4	12.9	87.9
50代男性	96	11.5	31.3	37.5	19.8	88.5
60代男性	110	8.2	38.2	47.3	6.4	91.8
女性計	500	11.6	41.8	36.0	10.6	88.4
20代女性	76	11.8	48.7	21.1	18.4	88.2
30代女性	97	15.5	50.5	22.7	11.3	84.5
40代女性	114	12.3	38.6	38.6	10.5	87.7
50代女性	97	10.3	38.1	44.3	7.2	89.7
60代女性	116	8.6	36.2	47.4	7.8	91.4
認知計	977	11.4	38.5	37.9	12.3	88.6
症状・内容理解	273	17.6	42.9	32.6	7.0	82.4
名称のみ認知	704	8.9	36.8	39.9	14.3	91.1
非認知	23	8.7	8.7	39.1	43.5	91.3

家 族 (N=1000)



	回収数	意思表示している	意思表示したいと思っはいるが、まだ意思表示していない	意思表示していないし、意思表示したいと思わない	意思表示しているかどうかはわからない・知らない・家族はいない	意思表示なし・不明計
全 体	1000	7.6	15.4	31.7	48.9	93.0
男性計	500	6.4	16.4	34.6	46.4	93.8
20代男性	79	7.6	10.1	22.8	63.3	92.4
30代男性	99	7.1	17.2	28.3	49.5	92.9
40代男性	116	4.3	18.1	40.5	40.5	95.7
50代男性	96	6.3	13.5	34.4	50.0	93.8
60代男性	110	7.3	20.9	42.7	34.5	93.6
女性計	500	8.8	14.4	28.8	51.4	92.2
20代女性	76	9.2	15.8	17.1	63.2	93.4
30代女性	97	13.4	11.3	19.6	57.7	87.6
40代女性	114	7.9	14.0	33.3	46.5	92.1
50代女性	97	6.2	15.5	35.1	47.4	94.8
60代女性	116	7.8	15.5	34.5	46.6	93.1
認知計	977	7.6	15.7	31.3	49.1	93.0
症状・内容理解	273	9.9	19.4	33.0	41.8	90.8
名称のみ認知	704	6.7	14.2	30.7	52.0	93.9
非認知	23	8.7	4.3	47.8	39.1	91.3

注) 数値は回収数を100とした%

■ : 全体より10ポイント以上高い ■ : 全体より5ポイント以上高い
■ : 全体より10ポイント以上低い ■ : 全体より5ポイント以上低い (N≥30)

■ 心臓の提供を「受ける意思がある」と考える人は、「受けたくない・受けない」と考える人のほぼ2倍。

一方、心臓の提供を「受ける意思」があるかどうかを尋ねたところ、「心臓移植が必要であれば、受ける意思がある」と答えた人は61.3%にのぼり、6割を超えた。「心臓移植は必要であっても受けたくない・受けない」（31.5%）と答えた人の約2倍のポイントとなっている。

■ 20代では、男性に比べ、心臓の提供を「受ける意思がある」女性が20ポイント以上も高い。

20～30代の若年層では、男性より女性の方が「心臓移植が必要であれば、受ける意思がある」が高く、女性は8割に近いポイントとなったが、男性は5割台にとどまっている。

逆に、「受けたくない・受けない」とする人は、男性は4割近くいるのに対し、女性では2割弱にとどまっており、ここでも男女の意識の差が大きいことがうかがえる。

図 心臓移植に対する考え方（N=1000）

Q. あなたは、心臓移植に対してどのように思いますか。次にあげた中からあなたご自身のお気持ちに最も近いものをひとつだけお知らせください。（SA）

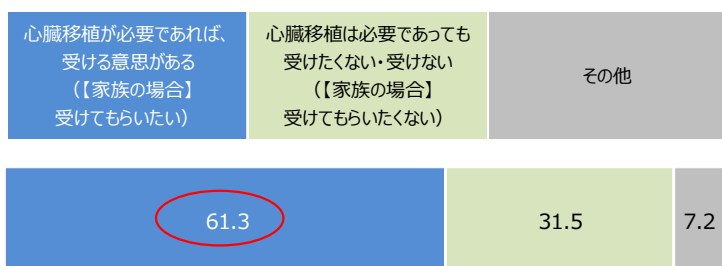


表 階層別にみた心臓移植に対する考え方

		回 収 数	心臓移植が必要であつても 受けたくない・受けない （【家族の場合】受けても らいたくない）	心臓移植は必要であつても 受けたくない・受けない （【家族の場合】受けても らいたくない）	その他
全 体		1000	61.3	31.5	7.2
性×年代別	男性計	500	58.8	35.8	5.4
	20代男性	79	54.4	36.7	8.9
	30代男性	99	57.6	38.4	4.0
	40代男性	116	67.2	28.4	4.3
	50代男性	96	63.5	31.3	5.2
	60代男性	110	50.0	44.5	5.5
	女性計	500	63.8	27.2	9.0
	20代女性	76	77.6	18.4	3.9
	30代女性	97	77.3	16.5	6.2
	40代女性	114	66.7	24.6	8.8
50代女性	97	52.6	37.1	10.3	
60代女性	116	50.0	36.2	13.8	
心不全認知状況別	認知計	977	62.0	30.6	7.4
	症状・内容理解	273	67.4	25.6	7.0
	名称のみ認知	704	59.9	32.5	7.5
	非認知	23	30.4	69.6	0.0
心不全罹患経験有無別	自分・周りで罹患経験あり	134	64.2	29.9	6.0
	罹患経験なし	843	61.7	30.7	7.6
	意思表示あり	113	67.3	26.5	6.2
臓器提供意思表示状況別	意思表示なし・意向あり	378	71.7	23.5	4.8
	意思表示なし・意向なし	379	51.5	38.8	9.8
	不明	130	54.6	37.7	7.7
	認知計	469	59.9	32.4	7.7
補助人工心臓認知状況別	内容理解	38	63.2	28.9	7.9
	非認知	531	62.5	30.7	6.8

注）数値は回収数を100とした%

■：全体より10ポイント以上高い ■：全体より5ポイント以上高い ■：全体より10ポイント以上低い ■：全体より5ポイント以上低い（N≥30）

■ 補助人工心臓を詳しく知っている人は、わずか3.8%。ほとんどが“なんとなく”知っている程度の認知。

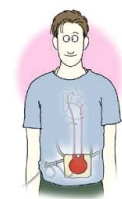
本調査では、補助人工心臓についてどの程度知っているのかを調べるために、補助人工心臓に関する情報を提供した後に認知の状況を尋ねた。その結果、「補助人工心臓という言葉を見聞きしたことがあった」までを含めた認知率は46.9%となった。

しかしその内訳をみると、「補助人工心臓がどのようなものか知っていた」は、わずか3.8%にとどまった。多くは、「補助人工心臓があることを知っていた」(21.2%)、「補助人工心臓という言葉を見聞きしたことがあった」(21.9%)といった、“なんとなく”知っている・聞いたことがある程度の認知にとどまっている。

Q. 以下の説明を見て、次の質問にお答えください。あなたは補助人工心臓についてご存知でしたか。(SA)

補助人工心臓とは

- 心臓の働きを補助する装置です。
- 日本で現在使われている人工心臓は「補助人工心臓」のみで、心臓移植を登録した患者さんの移植までの待機期間の治療方法です。
- 補助人工心臓の場合、自分の心臓は残した状態で全身の循環を補助していく装置として使用します。
- 補助人工心臓には「体外設置型」と「体内への植込み型」の2種類があります。
- ペースメーカーとは全く別のものです。



体内への植込み型



体外設置型

図 補助人工心臓 (VAD) の認知 (N=1000)

補助人工心臓が どのようなものか 知っていた	補助人工心臓が あることを知っていた	補助人工心臓という 言葉を見聞きした ことがあった	補助人工心臓は 知らなかった	認知計
3.8	21.2	21.9	53.1	46.9

表 階層別にみた補助人工心臓 (VAD) の認知

	回収数	補助人工心臓がどのようなものか知っていた	補助人工心臓があることを知っていた	補助人工心臓という言葉を見聞きしたことがあった	補助人工心臓は知らなかった	認知計
全体	1000	3.8	21.2	21.9	53.1	46.9
男性計	500	5.0	22.6	22.0	50.4	49.6
20代男性	79	5.1	19.0	13.9	62.0	38.0
30代男性	99	3.0	18.2	28.3	50.5	49.5
40代男性	116	3.4	26.7	19.8	50.0	50.0
50代男性	96	7.3	19.8	22.9	50.0	50.0
60代男性	110	6.4	27.3	23.6	42.7	57.3
女性計	500	2.6	19.8	21.8	55.8	44.2
20代女性	76	2.6	22.4	18.4	56.6	43.4
30代女性	97	1.0	18.6	22.7	57.7	42.3
40代女性	114	4.4	19.3	18.4	57.9	42.1
50代女性	97	2.1	21.6	25.8	50.5	49.5
60代女性	116	2.6	18.1	23.3	56.0	44.0
認知計	977	3.9	21.5	22.1	52.5	47.5
心不全認知状況別						
症状・内容理解	273	9.5	33.7	23.4	33.3	66.7
名称のみ認知	704	1.7	16.8	21.6	59.9	40.1
非認知	23	0.0	8.7	13.0	78.3	21.7
心臓移植意向別						
意向あり	613	3.9	21.5	20.4	54.2	45.8
意向なし	315	3.5	22.9	21.9	51.7	48.3

注) 数値は回収数を100とした%

■ : 全体より10ポイント以上高い ■ : 全体より5ポイント以上高い
■ : 全体より10ポイント以上低い ■ : 全体より5ポイント以上低い (N≥30)

■ 補助人工心臓治療は「高額な費用が掛かる」というイメージ。

補助人工心臓に対するイメージとしては、「高額な費用が掛かる」（56.1%）が突出して高いスコアとなった。次いで、「限られた病院でしか治療できない」（37.1%）、「心臓の機能が落ちたときに使用する」「補助人工心臓の装着にはリスクが伴う」（32.6%）が高くなっている。

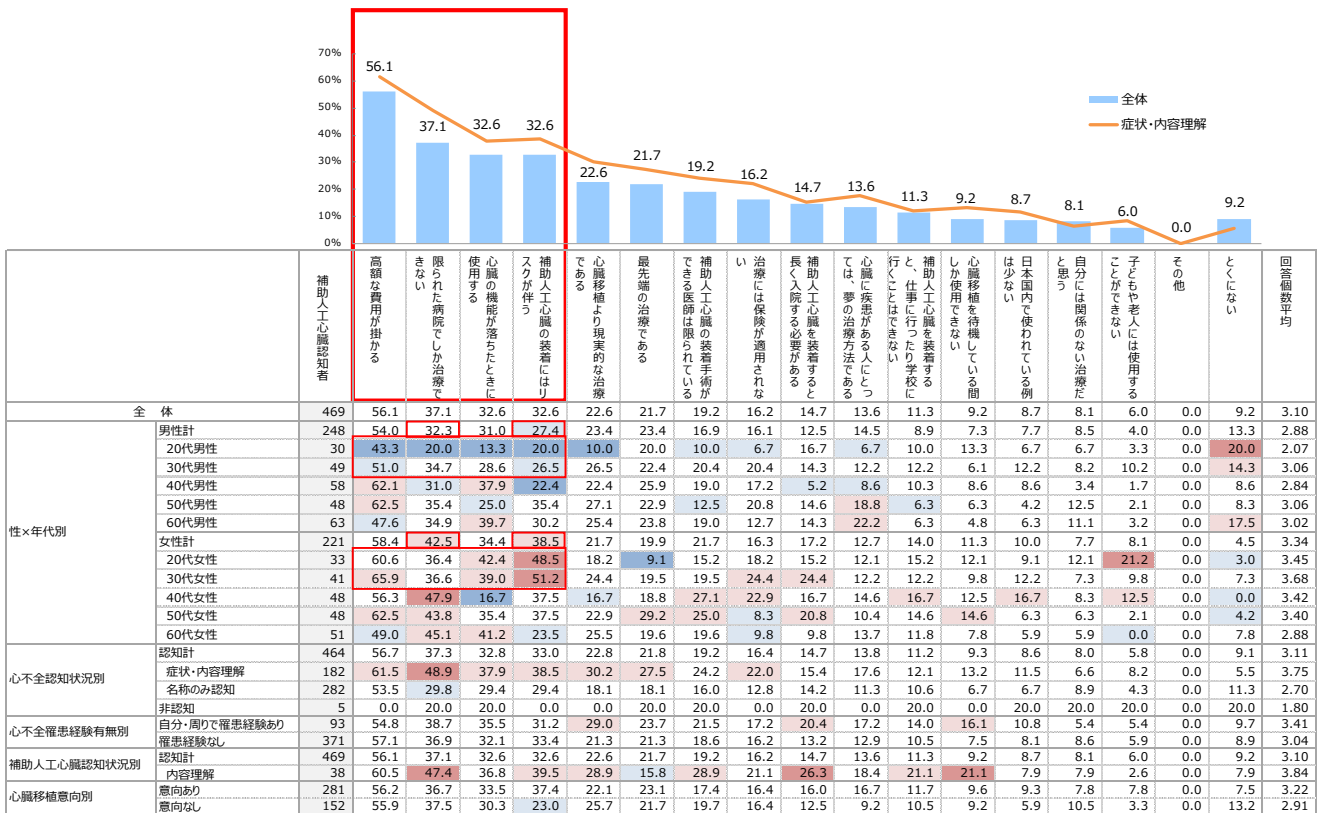
■ 男性より女性の方が、補助人工心臓についてより具体的なイメージを持っている。

男女別に比較してみると、「限られた病院でしか治療できない」（男性全体32.3% 女性全体42.5%）、「補助人工心臓の装着にはリスクが伴う」（男性全体27.4% 女性全体38.5%）と、男性より女性の方が、補助人工心臓について、より具体的なイメージを持っていることがうかがえる。

特に上位4項目について、20～30代男性のポイントは総じて低い。同年代の女性のポイントと比較すると、ここでも男女間での差が顕著になっている。

図 補助人工心臓に対するイメージ

Q. あなたは『補助人工心臓』について、どのような認識、イメージがありますか。（MA）



注) 数値は補助人工心臓認知者を100とした%、

■ : 全体より10ポイント以上高い ■ : 全体より5ポイント以上高い ■ : 全体より10ポイント以上低い ■ : 全体より5ポイント以上低い (N≥30)

■ 心臓を「提供する」ことには二の足を踏むが、でも、自分や自分の家族に必要なならば「提供して欲しい」。

心臓を「提供する」意思を尋ねた質問では、約半数の肯定的な意思が示された一方で、「意思表示していないし、意思表示したいとも思わない」という否定的な意思を示した人も約4割にのぼりました。

かたや、心臓移植が必要であれば「受ける意思がある」と考える人は6割を超え、「受けたくない・受けない」と答えた人の約2倍のポイントとなっています。

“自分が提供することには二の足を踏むものの、自分や家族が必要としたときには提供して欲しい”という矛盾を抱えた胸の内がうかがえる結果となりました。

■ 若年層においては、男性よりも女性の方が、心臓移植に関する意識も知識も高い。

質問に対する答えを見ると、総じて男性より女性の方が心臓移植に対する意識や知識が高い傾向がみられます。とりわけ20～30代においては、その男女差が顕著にうかがえます。

一概には言えませんが、この結果には、男性と女性の「生と死に対する現実味」の差が関わっているのではないかと推察されます。

男性の場合、20～30代であれば、まさに元気盛り・働き盛りで、自分が臓器を提供する、すなわち自分が「死ぬ」という場面を想像することがほとんどなく、現実味に欠けるのではないかと考えられます。

しかし、男性と違って女性は、子どもを産み育て、命の誕生や成長を目の当たりにします。あるいは家族の生活設計において、ご主人をはじめ家族の「万が一」も想定せざるを得ない場面に遭遇します。女性にとっての「生と死」は男性以上に現実味のある出来事であり、その環境の中で「臓器移植」の情報にも触れ、自然と意識や知識が高まっているのかもしれません。

超高齢社会を迎え、心不全などによって心臓移植治療を必要とする患者さんが増えることが予測されています。一方で日本の移植医療は、世界的に見れば“後進国”と言われるほど、まだ途上にあります。しかし、これは私たちの宗教観や死生観にも関わる点も多く、すぐさまにその提供数を上げられるものでもありません。

臓器移植医療の普及に向けては、臓器コーディネーターの増員などをはじめとした医療体制の整備はもちろんですが、移植医療に関する正しい情報提供と啓発活動を両輪で地道に進めていくことが大切です。今回のインターネット調査もその一環です。